

**特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業(特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する実証研究)
研究概要一覧**

団体名	研究概要	研究に取り組む領域		
		1	2	3
鎌倉市教育委員会	児童生徒が自らの個性・特性を知るための「アセスメント」と自分らしい学び方を試すことができる「探究プログラム」を軸とした「かまくら ULTLA(※)プログラム」の実施を通じ、学校内外における個別最適な学びの在り方(特に、学習の個性化に関すること)について研究する。また、地域の方々や教職員等を対象とした、探究プログラムの理念やノウハウに関するワークショップ研修を開発し、地域社会全体で児童生徒が特性を發揮しながら学べる場づくりを進める。 (※)ULTLA=Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment(学びの最適化と評価による個性の解放)の略。	●	●	●
京都市教育委員会	特異な才能のある児童生徒が安心感や充実感をもって日々の学校生活を送ることができる学級風土とはどのようなものかについて、市が独自に開発したアセスメントツールである「クラスマネジメントシート」をもとに、特異な才能のある児童生徒のいる小・中学校を対象に、学級風土と教職員の関わりについてより詳細な研究を行う。また、ものづくりの担い手等による本格的な体験活動講座を実施し、不登校になった児童生徒がその能力を生かすことができる居場所づくりのあり方や在籍校との連携などについて研究を行うとともに、継続的な支援の実施に向けた地域主導型の運営の仕組みづくりや資金調達の方法等を研究する。	●	●	
学校法人星槎	特定分野に特異な才能のある児童生徒の対応を専門とする学校外教育施設にて以下の取組を行い、学校外機関の在り方や、学習状況の把握や学習評価の在り方を探る。その際、2E児童生徒の対応にも留意して実践研究を進める。 ・ICTを積極的に活用した個に応じた学習活動の日常化やサポートの在り方の可視化や個別指導計画モデルの作成と分析 ・多様な子供たちへの有効なプログラムの検討、プロジェクトベースラーニングやSTEAM 教育を参考にした、探究横断学習を中心とした協働学習プログラムの構築 ・家庭との情報共有の在り方の検討、2E傾向のある児童生徒への多様性の理解、心身の育成を目的とした SEL教材の研究開発		●	
国立大学法人筑波大学	学校外の機関とも連携を図りながら、学校内外の「学びの場」を充実させ、以下の3つを研究の柱とし、その効果を実証的に検証する。 ・教室内の学習・生活環境の、専門的見地からの言語化ならびに理論的検証 ・学校内における多様な学びの場の設定や連携、関連する環境整備、専門的見地からの言語化ならびに理論的検証 ・学校外における機関との連携と、学校外における学びの場の充実、専門的見地からの言語化ならびに理論的検証	●	●	
国立大学法人東京学芸大学	特定分野に特異な才能のある児童への支援の在り方について、附属小学校と連携し、以下の実践を基に明らかにしていく。 ・子供自身の興味関心に応じた探求のための柔軟なカリキュラム・マネジメント、「何を」「どのように」「誰と」「どこで」学ぶかを子供が選択する授業、得意を伸ばし社会性を育む校外活動 ・保健室を活用した「自分らしくいられる場所」での個別最適な学びの提供と協働的な学びのサポート ・高性能PCを中心とした特異な才能のある児童が使用可能な高度なツールが整った環境の整備 等	●	●	
長野県教育委員会	認知や発達等に特性があり、学びづらさを抱える児童生徒に関して、特性を包み込む授業の在り方や、個々の特性を把握するアセスメント方法、特性に応じた教育方法について研究を進めるとともに、外部機関との連携により、新たな学びの場を提供する。	●	●	
名古屋市教育委員会	全ての子どもが、互いに尊重しあいながら必要なときに仲間と協力できる「緩やかな協働性」の創り手となることを目指し、イェナプラン教育の活動(対話、遊び等)やアドベンチャープログラムを参考とした学級づくりの実践の更なる改善・充実を進めるとともに、児童の積み重ねた経験や学級の状況との関係における自由進度学習の進め方や、学級づくりの実践をカリキュラム上において整理することに取り組む。	●		
八王子市教育委員会	学校と地域の大学等が連携して、土曜日に特異な才能のある児童生徒を対象にその才能の伸長を支援する講座を設ける。講座に参加する児童生徒、保護者との面談や作成した作品等の確認を通じて児童生徒の得意分野や隠れた能力を把握し、保護者、在籍校の教員、大学教員等と一人ひとりに応じた指導計画を作成する。この指導計画を基に大学教員等が指導を行い、一人ひとりの能力を伸ばすとともに、他者と協働し集団の中でその能力を發揮するためのコミュニケーションスキル学習を取り入れ、児童生徒の成長と変容を把握し効果的な支援のあり方を検証する。		●	
国立大学法人三重大	学習上の困難への支援、学校内の環境整備、学校外関係者による学びの場の提供などといった支援によって、特異な才能のある児童生徒が困難を克服でき、多様性を包摂するような学校環境づくりをめざす。また、特異な才能のある児童生徒に対し通常カリキュラムよりも体系的で深化した幅広い内容の学習を行う「拡充」を、総合的な学習の時間において展開する。	●	●	

※ 本実証研究で各団体は、文部科学省が指定した研究課題を選択し取り組むこととなっている。上表の研究に取り組む領域とは、その研究課題を大まかに分類したものである。
(1 学校内での取組に関すること、2 学校と学校外との連携に関すること、3 児童生徒を取り巻く環境の整備に関すること)。